

夢紡ぎ出す 絆

未来を開く
まさきの夏祭り

まさき夏祭りは8月6日、

塩屋海岸と松前公園で開かれた。

猛暑の中、祭りに参加したのは延べ3万人。

いつもと変わらないはずなのに、何かが違った。

例年がない「勢い」があった。

祭りという縦系にさまざまな横系が重なり合って、

「絆」ができたからだ。

その横系は何だったのか。

34回目の松前の夏をリポートする。



祭りに懸ける選手、踊り手

夏祭りの熱き戦い「はんぎり競漕」。最高に盛り上がる「まさき音頭」。

選手、踊り手はそれぞれの思いを祭りに懸ける。

今年はどんな思いがあったのか。参加者に聞く。



松前町の夏の風物詩「はんぎり競漕」。子どもの中には、毎年町内の小学5年生が参加しています。児童らは、この日のために、夏休みを返上して練習に励みます。今年の子ども男子の部を制したのは岡田小の三本幸輝くん。「練習は、楽しかった反面、思うようにはんぎりを乗りこなせなくて大変だった」と振り返ります。「大きく速く漕ぐことを意識した」という三本くん。予選を1着でゴールし、決勝進出を決めました。

「正直、決勝に行けるとは思っていませんでした。でも決勝に行くからには、応援してくれる人のためにも、絶対優勝しようと思いました」

迎えた決勝。三本くんは予選同様、大きくて速いストロークでどんどん他の選手を引き離しゴール。うれしい優勝を果たしました。

勝因は「応援の力と強い気持ち」と話す三本くん。「頑張って練習してきてよかった」とまぶしい笑顔を見せました。

応援してくれる人のために、絶対優勝したかった

三本幸輝^{こうき}くん・岡田小5年

各連が趣向をこらしたパフォーマンスを披露する「まさき音頭」。北伊予中学校PTAは東北を代表するお祭りを再現しました。太田美和さんは、秋田の竿燈まつりを担当。長い竿を十文字に構え、提灯を数多く付けた『竿燈』を力強く立ち上げ、元気な笑顔を見せました。「今、この時も東日本大震災の被災地では、たくさんの方が支え合って頑張っています。東北を応援したい」と太田さん。

地域からできることをしようと話し合い、今年は東北のお祭りを紹介することに決めたメンバー。小道具の作成

などは大勢の人が協力しました。助け合う気持ちがあるにはありました。その気持ちは当日の踊りにもあふれていました。

「準備の時から一丸となって取り組むことができたので、本番は一致団結して、楽しむことができました」と喜びを語る太田さん。松前から熱い想いを届けました。

支え合い頑張っている 東北を応援したい

太田美和さん・北伊予中PTA

まさき音頭がスタートして以来、毎年大勢の仲間と共に出演している松前校区婦人会の丸田信子さん。「1年で1番燃える」と言い切るほど、夏祭りに懸ける思いは強い。

「私たち婦人会は中高年で女性ばかりのグループ。普段の活動は、限られた地区という人が多い。もつといろんな人とふれあってほしい、松前町を好きになつてほしい。だから、『出よう出よう』とメンバーを引っ張り出すんです」

真っ赤なTシャツに真っ白なパンツ、ひまわりがトレードマーク。「この年で恥ずかしいという人もいます。でも、目

いろんな人とふれあって 松前町を好きに なってほしい

丸田信子さん・松前校区婦人会



垣根を越えて繋がる笑顔

チームを越えて、見る人見せる人の垣根を越えて、
笑顔がつながっていった夏祭りの様子を笑顔写真で振り返る。

正午、塩屋海岸―。容赦なく照りつける日差しと祭りに参加した人々の熱気で暑さが増す中、はんぎり競漕大会はスタートしました。

年に一度しかないこのレースを大切に思い、懸命にレースに取り組む選手たちの姿は、勝敗、チームを越えて人と人との繋ぎ、たくさんの笑顔を生みました。

夕暮れの松前公園。納涼ビアガーデンをはじめ、さまざまな夜店に大勢の人が集う中、子どもフェスタが開幕。義農太鼓や金管バンドの演奏を披露する子どもたちには、大勢の人前で演奏できる喜びで笑顔がこぼれました。観客にも笑顔があふれました。

午後7時、22連約1000人によるまさき音頭がスタート。踊り手は、空高く響く太鼓の音に合わせ、趣向をこらしたパフォーマンスを披露。楽しむ気持ちは人から人へと伝染しました。他のチームと交流したり、観客も輪に入って踊ったりと、共に楽しみ、喜びを分かち合いました。チームを越え、見る人見せる人の垣根を越え、笑顔が繋がっていきました。



チームや会社の垣根を越えて、
来年も松前町を盛り上げていきたい！
遠藤公唯さん・東レ様

見るだけじゃなくって
一緒に踊れて楽しかったよ
来年もまた来ようね
上野雅歩ちゃん・神野彩ちゃん
松前小4年



1_ チームが越えて喜びを分かち合う 2_ 笑顔で必死に前へ前へ 3_ おたかキャッチ上手くてできるかな 4_ 子どもフェスタに咲いた満面の笑み 5_ ワンピースの仮装に喜び子どもたちを見てまた笑顔 6_ みんなと一緒にあふれる笑顔 7_ よさこいチーム愛・彩媛も笑顔で観客を魅了 8_ 芸人モストデンジャラスストリオと大はしゃぎ 9_ 団体戦でははんぎりが思うように進まない消防署チーム。観客の期待に応え水泳でリレー 10_ はんぎり会場で仲間を応援 11_ 今年の総踊りでは連同士の交流が盛んに行われた 12_ トライアスロン/優勝を祝福して胴上げ 13_ 大勢の人前で演奏できる喜びに笑顔がこぼれる 14_ 岡小の児童が作った「東日本がんばれ」の文字を持ち踊るボウ連 15_ 一緒にたよさこいを楽しむ

はんざり競漕の結果

個人戦

子ども男子の部

- 1位 三本幸輝 (岡田小)
- 2位 山田明日翔(松前小)
- 3位 二宮良太 (岡田小)

子ども女子の部

- 1位 西岡樹里 (北伊予小)
- 2位 池内萌葉 (北伊予小)
- 3位 山下莉穂 (松前小)

一般男子の部

- 1位 相原俊二 (松前町役場)
- 2位 東山伸也 (松前町役場)
- 3位 星加友哉 (松前中)

一般女子の部

- 1位 宮内那帆 (岡田小教員)
- 2位 東 砂江 (超平和バスターズ!!)
- 3位 武田和美 (超平和バスターズ!!)

団体戦

- 1位 松前町役場3号
- 2位 松前中学校A
- 3位 松前町役場2号

はんざりトライアスロン

男子の部

- 1位 小寺能康 (松前消防署)
- 2位 宇都宮弘之(松前町役場)
- 3位 黒田悟史 (松前中)

女子の部

- 1位 向井優衣 (BB☆RUSH)
- 2位 東 砂江 (超平和バスターズ!!)

まさき音頭の結果

- 優勝 北伊予中学校PTA
- 準優勝 松前小学校PTA
- 3位 松前町ボランティア連絡協議会

殊勲賞

北伊予小学校PTA

敢闘賞

松前校区婦人会

仮装賞

1位 北伊予中学校PTA

2位 岡田小・中学校PTA

3位 松前小学校PTA



祭りという縦糸に、励まし合ったり、支え合ったりする
町民のさまざまな想いや行動という横糸が重なって、絆ができた。
分かち合える絆をつくれれば、地域は強くなる。

みんなで紡いだ絆

まさき夏祭りは、たくさんの人たちの手によって作られる祭りです。選手、踊り手や出演者などの「表方」だけでなく、「裏方」のスタッフや観客など、たくさんの人たちが携わって一つのものができる祭りの性質は、現代の地域社会やコミュニティが必要とする性質であると言えます。普段接する機会が少ない立場や地位の異なる人たちが互いに力を合わせる姿は、祭りならではのコミュニケーション。けれど、このつながりや仕組みこそ、21世紀のまちづくりに最も重要なことではないでしょうか。

今年の夏祭りは家族、地域、職域というコミュニティを越えて、見る人、見せる人という垣根を越えて、人と人とを繋ぎました。絆を生みました。祭りという縦糸に、励まし合ったり、支え合ったりする町民のさまざまな想いや行動という横糸が、幾重にも重なったからです。そういう「糸」だからこそ、垣根を越えて繋がれて、絆ができたのです。

人と人との絆は、しばしば見えない糸に例えられます。絆をつくるということ、は、互いに「糸」を「半」分ずつ持って、結んだり、繋いだりすること。1本の糸は弱いけれど、繋がれた糸が、縦糸や横糸になって広がると面になります。強くて丈夫な絆ができます。

まちづくりも同じです。分かち合えば、人と人とのつながりが広がり、地域に一体感が生まれます。だから地域は強くなるのです。

今回の祭りのように、何事にも分かち合える絆をつくって、取り組んでいくまちにしましょう。それが松前の絆です。